

意思決定支援分科会報告

ラポール 古庄 矢部 紘

今回の報告では、「私が望む生活とは」をテーマに、3名の当事者が生活・仕事・余暇・金銭の使い方について発表しました。杉山氏のコメントや会場での意見交換を通じ、意思決定支援における重要な視点が改めて明らかになりました。

まずは、テラス・からふるの鈴木氏は、体調に合わせて袋詰め作業などに励む日常について語りました。生活リズムが整わない葛藤もありながら、家族のために家の手伝いを頑張り、父親の送迎を受けながら出勤が続いています。イベントで自作のお菓子を振る舞うことや、切り絵などの多彩な趣味が大きな支えとなっています。

「できたりできなかったりする自分」を受け止めつつ、「約束をしつかり守り、やることはしつかりできる人物を目指したい」という前向きな成長への姿勢が非常に印象的でした。

続いて、ラポール・ファームの伊藤氏は、焼き菓子作りに責任感を持って取り組み、「おいしいからまた買いに来た」というお客様の声が大きな励みになっています。グループホームでの生活や余暇活動も充実しており、工賃で大好きなタレントのカレンダーを購入したり、仲間と買い物を楽しんだり、金銭管理も安定しています。新しいことに挑戦する意欲が強く、仕事と私生活のバランスが取れた落ち着いた様子がうかがえました。

ラポールみなみの浅井氏は、配線作業にやりがいを感じる傍ら、

アート活動や鉄道模型、博物館巡りといった豊富な趣味を謳歌しています。社協のサポートを受けながら生活費をやり繰りしていますが、「もっと工賃がほしい」という率直な希望も語られました。これは趣味を広げたいという自立した意欲の表れであり、経済的余裕を求める切実な声として印象に残りました。

意見交換では、当事者の本音がさらに深く語られました。「半日で帰れる日は嬉しい」という伊藤氏の言葉からは、プライベートな時間の価値が再確認されました。また、周囲への要望として鈴木氏が語った「私にあまり期待しないでほしい。緊張してしまう」という言葉は、良かれと思った期待が負担になり得るという、支援者が肝に銘じるべき視点でした。「幸せな瞬間」については、三名とも「仕事での達成感」と「趣味や仲間との時間」の両方を挙げており、仕事と余暇が人生の幸福を支える両輪であることが示されました。

会場からは、彼らの趣味の豊かさや仕事への誇りに感銘を受ける声上がる一方で、日々の業務の忙しさから「本人の思いをじっくり聴く時間が不足している」という共通課題も共有されました。

3名の発表から、推し活や趣味が生活の質を大きく高め、それが“その人らしい生活”につながるということが明確に示されました。今後は、本人の願いに応える工賃向上への取り組みや、価値観を丁寧に聴く時間の確保、そして「聞いてくれる場所や仲間がいる」という安心感を基盤とした支援が求められます。

今回の発表は、当事者一人ひとりが自分の望む生活を語る力を持っていることを再確認する機会となりました。支援者としてその声を受け止め、生活・仕事・余暇のバランスを共に考えながら、本人の意思を尊重した支援を続けていくことが重要だと感じました。